

# 山本通産

「色と光の専門商社」山本通産(ytc)の2016年12月期決算は、売上高が過去最高を更新する見通し。今期は、第5次3カ年経営計画の初年度。最終年度の18年に創業100周年を控えるなか、重要な年と位置付けた初年度が好調に推移した。引き続き事業基盤強化に向け顔料、添加剤、樹脂などトータルソリューションを提供するモジュール化に力を注ぐと同時に諸施策を推進する。一連の取り組みで創業100周年には売上高260億円を目指す。

同社は顔料・染料の色材を中心に添加剤、樹脂などの化学品と精密機器を取り扱う。今期の好調の背景には、売り上げの4割程度を占める塗料関連で今年の新型車につながるビジネスが寄与したほか、メーカーの東南アジア向け輸出に關与できたことが挙げられる。カラーフィルタではインクジェット関連の原料販売が伸び、販売増につながった。基盤強化を目指した諸施策では、まず加工ビジネスがある。顔料の輸入販売にとどまらず、同社が加工しオリジナル商品として販売する形。「まだ大きくないものの、2015年前後から増えつつある」(小野恒二社長)という。

新しいビジネスモデルの一例では、色彩創造センターがある。これはytcオリジナルカラーをつくり、最終ユーザーに提案する取り組み。今年には社長直轄の市場開発プロジェクトが発足した。「テーマを絞る前段階だが、いくつか候補が出てきた」(同)。

100周年および人材育成の一環としてブランドディングプロジェクトも推進中。ここではまず「100周年企業に在るといふ自覚の共有(同)を進めている」。

## 100周年へ着実に成果